

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		学校図書館運営事業						予算事業名		学校図書館運営事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令						
				10	01	03	2301	経常経費							
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文						事業の区分		主要事業					
		4-1生きる力を育む教育環境づくり (学校教育)													
		①教育内容の充実						担当課係等		学校教育課					
8学校図書館の運営															
事業期間		継続 (平成15年度～令和 2年度)													
【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
児童生徒は読書活動を通じて言葉を学び、想像力を豊かにする。児童生徒が読書に親しむ機会をより多く提供し、関心を深めるとともに、望ましい読書習慣を身につけさせたい。また、教職員が授業で積極的に学校図書館を使い児童生徒に読書活動を広げられるようにする。								国における読書推進事業計画策定、予算措置を受け、読書活動の奨励事業を加速した。							
【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】								【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】							
・小学校全校に学校図書館司書(嘱託)を配属 ・司書教諭の業務支援 ・読み聞かせやブックトークの実施 ・学校図書館司書の研修 ・平成29年学校図書館システムを中学校3校に導入。 ・中学校図書館の整備を図るため嘱託職員を1名要望 (H31より要望)								児童生徒及び教職員							
								【事業をとりまく環境の変化】							
								小学校全校に学校司書を配置しており、中学校の読書活動について司書教諭が多忙で停滞しているので、学校司書を派遣のうえ環境整備の支援を行っている。 遅れている中学校図書館の環境整備を図るため嘱託職員を1名要望したい。(H31より要望)							
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】							
各小中学校にある図書室を運営していくための経費				各小中学校にある図書室を運営していくための経費				各小中学校にある図書室を運営していくための経費							

■事業費

		H30年度		R01年度				
財源内訳	国庫支出金	0	0					
	県支出金	0	0					
	地方債	0	0					
	その他	0	0					
	一般財源	6,512	6,571					
歳入計 (千円)		6,512	6,571					
歳出内訳	節 (番号 + 名称)		金額 (千円)	金額 (千円)				
	09 旅費		118	119				
	11 需用費		393	393				
	13 委託料		492	498				
	14 使用料及び賃借料		5,509	5,561				
歳出計 (千円) (A)		6,512	6,571					
伸び率 (%)			0.90					
備考	総合計画112ページ 予算書158ページ							

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動指標	学校図書館司書配置校	校	目標	12.00	12.00	12.00
	市内全小学校に学校司書を配置		実績	12.00	0.00	0.00
	学校図書館システム配置校	校	目標	12.00	12.00	12.00
	市内全小中学校に学校図書館システムを導入		実績	12.00	0.00	0.00
成果指標	学校図書館司書活動校	校	目標	12.00	12.00	12.00
	市内小中学校での活動実績		実績	12.00	0.00	0.00
	小中学校学校図書館貸出図書数	冊	目標	150,000.00	150,000.00	150,000.00
	小中学校児童への図書貸出数		実績	149,830.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	児童の情操教育において、読書活動から得るものは多大である。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	学校設置者は市であり、学校司書配置については市の嘱託職員として採用しているが、読書活動も教育と考えるのであれば県費教育員の配置が望ましい。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	司書教諭（県費教員）の負担軽減につながっているが、学校司書は小学校のみ配置しており、中学校3校を担当する学校司書1名を要望したい。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	学校規模に係わる人員効率の指標設定が困難である。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	児童生徒及び教職員のすべてを対象としている。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	読書活動について、学校間の成果に差があるが、全体的には底上げが図られている。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	現状の目標設定達成が近づいているが、最終的な到達点はない。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
学校図書館法の改正において、学校図書館司書に関する規定を明文化し、学校図書館司書の業務を定義づけしたことによる。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
学校司書の業務を中学校における読書活動推進に広げ、司書教諭との連携を図る。遅れている中学校図書室の整備を図るため、3中学校を担当する学校司書を1名配置を要望したい。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
☒ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 児童生徒の読書活動を推進するため、学校図書室の環境整備の充実を図ることを目的に学校司書を配置を検討したい。遅れている中学校図書室の整備を図るため、学校司書を1名配置したい。	
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。	